

## 13 課「親の気持ち・子の気持ち」

### <行動目標>

テレビや街中で気になることを見かけたとき、それについて意見を言ったり、それに関する自分の経験を話したりすることができる。

### <2つのスモールトピック>

S T 1 「町で見かけた子どもたち」

自分の子どもころの経験を交えながら、簡単に意見を言うことができる。

S T 2 「思い出すと」

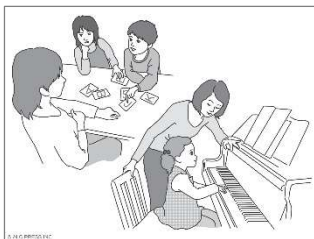
子どもころ受けた教育で今の自分に影響を与えていることについて話することができる。

### 話してみよう

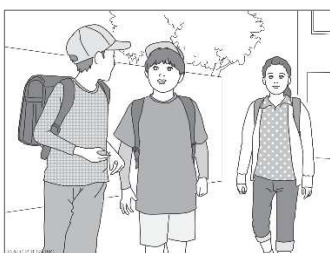
『できる日本語初中級』の13課のテーマは「親の気持ち・子の気持ち」です。自文化とは異なる環境の中で生活をしていると、「あれ?」「どうしてだろう?」と気になることがでてくると思います。そんなとき、自分の経験を思い出すこともあるでしょう。周りの人<sup>に</sup>自分の意見を言ったり、自分の経験を話したりして、お互いの考えを知ることができたらいいですね。

【話してみよう】では、イラストや写真を見ながら、これから始まる課のテーマに学習者を導いていく役割を持っています。初中級では2枚のイラストと1枚の写真になっています。どのイラスト、写真を使うかは学習者に合わせて選んでください。全部使う必要はありません。

#### 質問例



- ・子どもの頃、どんな習い事をしましたか。  
それは好きなことでしたか。  
習っているとき、どんな気持ちでしたか。
- ・今もしていますか。



- ・小学生の頃、どんな子どもでしたか。
- ・よくした遊びは何ですか。
- ・家の手伝いをよくしましたか。
- ・子どもの頃、両親は厳しかったですか。優しくかったですか。



- ・子どもの頃、野菜は好きでしたか。
- ・好き嫌いがありましたか。好き嫌いがあったとき、両親はどうしましたか、今はどうですか。

イラストを見ながら、見たことがあるか、同じような状況に遭遇したことがあるかなどを聞いてみてください。イラストから過去の経験を思い出す学習者がいるかもしれないので、イラストをきっかけに学習者の経験を引き出して、話を聞いてみてください。きっといろいろな話が聞けると思います。

【話してみよう】のねらいは、テーマに学習者を引き付けることと、それまでに学んだ日本語を用いて話すことにあります。教師は学習者が話せるように促したり、他の学習者に質問をしてもらったりしてください。

#### 聞いてみよう

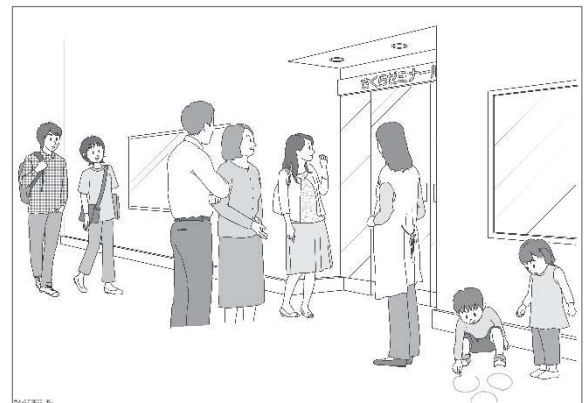
【話してみよう】が終わったら、【聞いてみよう】に移ります。【話してみよう】でテーマについて、学習者の興味が引き寄せられていたら、音声を聞くときには、学習者は聞くことに集中できると思います。既習の学習項目や語彙が増えていることや効果音が使われていることから、どんな状況かがつかめると思います。

## ST 1 町で見かけた子どもたち

できること：自分の子どもころの経験を交えながら、簡単に意見を言うことができる。

### チャレンジ！

状況イラスト：パクさんとマルコさんは学校からの帰り道、塾の前を通りかかりました。そこにいる子どもや親たちを見ながら話しています。



1



コマイラスト：塾の前に人がたくさんいるのを見て驚いたマルコさんが、パクさんに話しかけます。パクさんはマルコさんに親が塾で勉強している子どもを待っていると説明をします。しばらくすると、塾から子どもが出てきます。二人はその様子を見ながら、自分が親だったらどうするかということについて、話しています。

【チャレンジ！】では、まず状況イラストから始めます。このとき、場所の確認だけではなく、そこがどのようなところかにも注目するようにしてください。3枚目のコマイラストでは、マルコさんは自分が親だったら、子どもにどうさせるかということと話しています。吹き出しの中のマルコさんと「親」の漢字を指しながら、自分が親だったらどうするかということに学習者の想像がいくようにするといいいと思います。一方、パクさんは、塾の前で待っている親の立場を想像して話しています。

学習項目 使役動詞

言ってみよう

別冊1

練習1は使役動詞の形の練習です。ルールを紹介して、変形がスムーズにできるように練習をします。フラッシュカードなどを使って口頭での変換練習や、シートを渡して宿題として書いてくるなどの練習をするといいです。

練習2は自動詞、練習3は他動詞が使役動詞として使われる練習です。「(人) を使役動詞」「(人) に～を使役動詞」助詞が異なることにとまどう学習者がいるかもしれません。別冊にあるキュー以外にも、練習をしながら、自分たちの経験を一文で言ってもらいたいと思います。

練習4、5は許可として使われる使役動詞の文です。練習4では「(人) に/を」の2つの助詞がどちらも使える文が取り上げられています。練習5は「(人) に～を使役動詞」です。

言ってみよう

本冊1

自分が見た光景から、自分が親だったら…と想像してどうするかということを話しています。Aの2ターン目は相手の意見に対して、違う角度から自分の意見を言うようになっています。💬があるので、自分で考えていうようにしてください。

チャレンジ！

2



コマイラスト：パクさんたちは、道で遊んでいる子どもたちを見かけます。それを見て、マルコさんはこの間、自分が見かけた子どものことを思い出し、パクさんに話しています。


2の【チャレンジ！】をするとき、状況イラストを再び見て、右に描かれている子どもたちに注目をしてください。2枚目のコマイラストでは、マルコさんがこの間、何をしたか、何を見たかということが話せるように、教師がイラストを指しながら、学習者の発話を促していくといいと思います。

学習項目 [V] のを見ました

言ってみよう 別冊 2

「～のを見ました」の前に、動詞の辞書形、タ形、ている形が使われています。形の変形をして終わりではなく、最近、自分が見かけたことなどを話してもらうのもいい練習になります。

言ってみよう 本冊 2

2 ターン目の A に  があります。教科書は A,B の 2 ターンですが、クラスに合わせて、この会話の続きがどうなるかを考えてみるのもいいと思います。

チャレンジ！

3



コマイラスト：マルコさんは子どもたちを見ながら、自分の子ども時代のことを思い出しながら、パクさんに自分の考えを話しています。

【チャレンジ！】 3 のやり取りは、2 で公園で野球をしている子どもを見たマルコさんが子どものことを思い出している話から始まっています。学習者にもそのことが分かってもらえるように、2 のコマイラストを見てから、【チャレンジ！】を始めるといいと思います。マルコさんの吹き出しの上を指して、右の男の子がマルコさんであることに注目してください。【チャレンジ！】では、スクリプトと一字一句同じに言えることは想定してないので、イラストと同じような意味合いのことが言えたら、大丈夫です。

学習項目 V ていました(過去の習慣)

言ってみよう 別冊 3

別冊のキューを変換する練習だけではなく、ぜひ、学習者の経験を言ってもらいましょう。「へえ！」というようなことが聞けるとと思います。

言ってみよう 本冊 3

ここでは目の前で見た光景から、自分の経験を思い出して話しています。練習の際に

は、ぜひその状況を忘れずに行ってください。「あ！」の読み方も変わってくると思います。クラスに合わせて、話し言葉になるとき、「してた」にもなることも紹介してください。

### やってみよう

ST1 の「できること」は、「自分の子どもころの経験を交えながら、簡単に意見を言うことができる」です。

🔊 外で見かけた光景から、自分の思い出を話したり、意見を言ったりしている会話を聞きます。会話の内容と合っているイラストを選ぶだけではなく、そのイラストの内容を表す日本語を再現してもらおうといいです。次に学習者が行うタスクでどのように言ったらいいかのヒントにつながります。

▶ 教科書 181 ページにあるイラストを見ながら、どう思うか、学習者同士で話します。ペアよりも 3 人～4 人くらいのグループで話すと、複数の経験が聞けていいと思います。自分の国の子どもの様子や、自分自身の経験なども紹介してもらいましょう。グループでの話し合いが終わったあとに、各グループでどのような話があったのか、クラス全体でシェアができるといいです。

## ST2 思い出すと

できること：子どものころ受けた教育で今の自分に影響を与えていることについて話することができる。

### チャレンジ！

状況イラスト：パクさんは山口さんの家に遊びに来ました。棚の上にある写真を見ながら、話しています。



1



コマイラスト：パクさんは棚の上の写真を手にとって、山口さんに映っているのがお母さんかと聞いています。写真の印象からパクさんは山口さんのお母さんが優しくだと思いましたが、山口さんはそうではなかったと話しています。

2枚目のコマイラストの山口さんの吹き出しの中に、テレビを見ている子どもの頃の山口さんが描かれています。お母さんが怒っている原因は何かが分かるように、【チャレンジ！】を進めてください。

**学習項目** NばかりVています Vてばかりいます

### 言ってみよう 別冊1

「ばかり」は、そのことに対して話し手が好ましく思っていないときに使われます。ただ機械的に変形の練習をするのではなく、学習者とやり取りをしながら練習を進めていくといいと思います。例えば、例をみんなで声に出して読んでから、教師が『ゲームばかりしています／ゲームをしてばかりいます』と言っている人は、ゲームをすることについてどう思っていますか」のように問いかけながら、練習を進めていってください。

言ってみよう

本冊 1

ここで用いられている「優しそう」の「～そう」は 2 課の学習項目の様態の「～そうです」です。また、「叱られた」の「～られた」は 10 課で学習した受身です。

第 1 版では「叱る」が 10 課の新出語彙でしたが、第 2 版では 13 課 ST2 の新出語彙になっています。

チャレンジ！

2



コマイラスト：山口さんは子どもの頃の思い出をパクさんに話しています。そして、子どものときのことが今の自分にどのような影響を与えているかということも話しています。

ここでは山口さんが子どもの頃の視点で話していることに注意をしてください。また、2 コマ目のイラストは過去のことと、今のことを比較して話していることに注目をしてください。

学習項目 使役受身

言ってみよう

別冊 2

練習 1 は使役受身の形の練習です。1 グループには、「せられる」と「される」の 2 つの形があることに注意をしてください。また、「話す」のように、1 グループの「～す」の動詞は「される」の形がないことも注意が必要です。フラッシュカードなどを使って口頭での変換練習や、シートを渡して宿題として書いてくるなどの練習をするといいです。

練習 2 のイラストは、誰が自分にどんなことをさせたかというのがわかるように、イラストの線の色が異なっています。イラストを見て言う単文練習が終わったら、学習者の子どもの頃はどうかかったかも聞いてみるのもいいと思います。子どもの頃のことをいろいろ思い出して、させられたことをたくさん言ってみると、自然と使役受身の練習になります。



言ってみよう

本冊 ②

友達同士の会話なので、友達言葉が使われた会話になっています。ペアでの練習の前に、キューにある動詞を使役動詞と一緒に確認するといいいと思います。また、キューを代入するだけではなく、相手の話を関心を持って聞いているということがわかるようなフィラー（ふーん、へえ）を使うように注意を促してください。学習者の中には、同じような経験を持った人がいるかもしれません。思い出を聞いてみるのもいいですね。

チャレンジ！

③



コマイラスト：山口さんはパクさんの子どもの頃のことを聞いています。パクさんの両親はパクさんがしたいことをさせてくれたと話しています。

2枚目のコマイラストの【チャレンジ！】では、イラストから「小学生のとき、水泳を習いました」「高校生のとき、友達と旅行しました」という発話が出るかもしれません。このままで音声聞いても、学習項目に注目することができないので、【チャレンジ！】の際に、パクさんが「水泳を習いたい」「友達と旅行したい」と思ったとき、両親はどうしたかと問いかねをするとST1の①で練習したことが使えると思います。そして、そのことについて、パクさんは今、どう思っているかも聞いてから、音声を聞くといいいと思います。

学習項目 Vせてくれます Vせてもらいます

言ってみよう

別冊 ③

練習1、2では、学習者にも経験を思い出してたくさん言ってもらいたいと思います。

言ってみよう

本冊 ③

「教育には熱心だった」の助詞の「～に」に注意を促してください。どういう意味か、これまでに学習したもので同じもの（例えば「～に興味があります」など）を取り上げて、確認するといいいと思います。

例の「小学生のとき、絵を習わせてもらって、うれしかった」の「習わせてもらって」は、Bさんが両親にお願いして習うことができたということがわかると思います。

やってみよう

ST2の「できること」は「子どものころ受けた教育で今の自分に影響を与えていることについて話すことができる」です。

🔊 音声を聞いたあとで、答えを確認します。クラスによっては、書くのに手間取ることもあるかもしれません。1度聞いて書けないときには、2度目は書いてほしい箇所で少しポーズをおいて聞くなど聞き方の工夫があると思います。音声を聞く目的は、次のタスクのヒントとするためです。

▶ 教科書に「子どもの頃のこと（生活、習い事、手伝いなど）」とあるので、家の手伝いをしていたか、どんな習い事をしていたか、学校での生活はどうだったかなどと促してください。それらの経験を当時どう思っていたか、今どう思っているか（今の自分にどんな影響があるか）などたくさん話してもらってください。いろいろなことを思い出してとても盛り上がります。グループで話してからクラス全体で共有すると思います。

## できる！

この課の行動目標は、「テレビや街中で気になることを見かけたとき、それについて意見を言ったり、それに関する自分の経験を話したりすることができる」です。

### 【できる！】実践例

- ・ ビジターセッションで「日本に来て不思議に思ったこと」を話す。
- ・ 町で見てきたこと、びっくりしたことを教室で共有し意見交換後、それぞれの意見を書いて教室に掲示し、互いに読み合う。
- ・ 町で見る様子の中からテーマを選んでグループで話す。
- ・ 国と違うところを付箋に書いて例を出し合い、それをグルーピングして、自分の考えと一緒に発表。
- ・ 7 課の話読聞書の「私の国と外国で違うこと」をもとにグループで意見交換をする。

## 話読聞書

13 課の【話読聞書】のテーマは「子どもを育てるなら都会？田舎？」です。ここでは、自分の意見を話したり書いたりする練習の2回目になります。まず自分の意見を言い（都会がいいと思うか、田舎がいいと思うか）、そのあとに、どうしてそのように思うか自分の経験や知っていること（一般的な事実）を話します。そして、もう一方の立場のメリットにも少し触れて、最後に再度、自分の意見を言うという形です。「確かに……。でも、……。～」などは、相手の意見を取り上げて自分の意見を強めたいときに使うと効果的な表現ですね。

授業では、まずは教室全体に「子どもを育てるなら、都会と田舎とどちらがいいと思うか」と問いかけ、話してもらいたいと思います。そして、子どもを育てるうえで、都会と田舎の生活のいい点や悪い点を考えます。その際、学習者の子どもときの経験なども聞けるといいですね。その後、グループ（3人～4人ぐらいが適当な人数です）になって、それぞれの意見を交換します。グループでの話し合いのあと、それぞれのグループでどのような意見があったか、教室全体で共有します。授業のあとは、自分が話したことを文章に書いてまとめてもらいます。話しっぱなしにしないで、書くという行為を通して、自分の意見をまとめる練習をします。書いた文章をクラスで読み合うこともできます。